

山武市子ども・子育て会議（平成28年度第1回）要旨

日時：平成28年8月30日（火） 13時30分～15時05分

場所：山武市役所（新館3階） 第5会議室

出席者：委員 14人／20人

事務局 10人（教育部3人・子育て支援課7人）

傍聴人：0人

進行：子育て支援課主幹

議事進行：会長

1. 開 会

報告〔子育て支援課事務局〕

①委員の交代（新委員への委嘱）

市立幼稚園こども園の園長の退職及び異動に伴い、新委員として、

日向幼稚園長・遠藤幸子さん

なるとうこども園長・石井佐代子さん

に、平成29年3月31日まで委員をお願いする。

②本日20名中14名出席。会議条例第6条により、過半数を超えたので会議を開催する。

2. あいさつ〔会長〕

台風が気がかりだったが開催できほっとした。

夏休みは何事もなく終わったようでよかった。

先日の新潟の小学校1年生の事件は、胸が痛む。このようなことがない山武市を創っていけるように、この会議で忌憚のないご意見をいただけるようお願いする。

3. 議題〔会議条例により議事進行：会長〕

（1）地域型保育事業について〔説明：子育て支援課事務局〕

小規模保育施設「すずらん保育園」の認可内容の変更についてご意見をいただきたく説明申し上げます。

前回の会議でご意見をいただき認可した、すずらん保育園は、設置者「株式会社スカイプランニング」で認可していた。今回の変更は、設置者の変更である。

認可当時にすずらん保育園の園長として務めていたのは、スカイプランニングの社員であった渡邊悦子氏である。その渡邊氏が、独立し、新たに株式会社優伸（ゆうしん）を設立し、事業を引き継ぐことになった。

設置者の変更は、「山武市家庭的保育事業等の認可等に関する規則」第5条に規定する「変更事項」には当たらないため、当初認可したものは、同規則第7条の規定に基づき、事業の廃止申請をしてもらい、今回新規の申請として受理をした。

なお、認可後今までの入園者はゼロである。

事業者の概要

・設置者 株式会社優伸 代表取締役 渡邊悦子

所在地 山武市埴谷 1867 番地 41

(以下、資料なし、口頭説明)

会社設立 平成 28 年 1 月 21 日

目的 ①保育所、託児所の経営 ②保育園、カルチャースクール、学習塾の経営及びコンサルティング業務、③幼児教育に伴う教材の開発及び販売、④身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、児童福祉法に基づく居宅サービス事業に関する業務、⑤保育に関する人材の研修及び育成事業、⑥喫茶店、飲食店の経営、⑦貸衣装店の経営、⑧ヘアメイク及び写真に関するスタジオの経営、⑨前各号に附帯関連する一切の業務

発行済株式総数 200 株

資本金 金 200 万円

(以下は、資料のとおり)

これらの申請書その他関係書類を審査した結果、当課としては認可することが適当と認めるところであるが、委員の皆様のご意見をいただきたい。

内容への質問、意見

Q〔委員〕 通常開所時間と時間外開所時間（資料1 P 2）は、だぶっているようにみえるので説明願う。間違っているなら訂正願う。

A〔子育て支援課事務局〕 開所時間は、保育時間と延長時間を合わせて7時から19時。延長時間は、そのうちの、保育短時間の場合は、7時から8時と16時から19時。保育標準時間の場合は、18時から19時。

土曜日は、確認したうえで、お知らせする。

延長時間は、別途料金を徴収する。

Q〔委員〕 非常防災対策の項目（資料1 P 6）について、年に数回程度講習を行うとあるが、「避難訓練をしなくてはいけない」という決まりはないのか。

大切なことなので、調べていただき、しなくてはいけないなら取り組んでほしい。

A〔子育て支援課事務局〕 確認する。

Q〔委員〕 保育士数の欄（資料1 P 7）に空欄がある。

A〔子育て支援課事務局〕 補正させる。

Q〔委員〕 保育士の数は2人で基準を満たしているのか。職員2分の1以上の基準は満たしていないように受けとれるし、保育士配置基準の2分の1以上でよいとも読み取れる。説明をお願いする。

A〔子育て支援課事務局〕

1, 2歳は子ども6人に対し保育士1人。0歳は3人に1人。

1, 2歳が8人定員で保育士2人必要で、0歳は1人必要。計3人必要なところだが、要件は2分の1以上なので、保育士2人で要件を満たしている。

Q〔委員〕保育士資格ない保育従事者に研修を行うというが、研修の実施状況はどのように確認しているのか。

A〔子育て支援課事務局〕県で実施している子育て支援員研修に参加する。

Q〔委員〕8時間と11時間保育の説明がよく分からなかった。事業者が選ぶのか利用者が選ぶのか。この書き方で要件が満たされているのならよいが、料金のことも含め利用者が分かるようにしないとイケない。

スムーズな説明をしてほしい。なおかつ、利用者にはきちんとかみくだいて説明をお願いします。

(2) 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について〔説明：子育て支援課事務局〕

「基本目標1 子どもの人権の尊重と安心安全な環境づくり」に沿った14事業は、順調又はほぼ順調という結果。

その中で前回の点検評価時期と比べ今後の取り組みで大きく変更のあったものは、「児童虐待防止対策」で、相談件数の増加やケースの長期化により、より早期に潜在的な需要支援者のケアを図ることを目的に、平成29年度から健康支援課が利用者支援事業母子保健型を開始する。これにより、妊娠期から子育て期まで切れ目ない支援を行うことができる。

「基本目標2 子どもが豊かにたくましく育つ教育の推進」14事業はいずれも順調ほぼ順調という結果。

前回の点検評価時期と内容の変更はない。

「基本目標3 安心して子どもを産み育てられる環境づくり」18事業はいずれも順調ほぼ順調という結果。

「基本目標4 子どもと子育てを支援する地域づくり」の22事業は前回と進捗状況は変わらない。

このうち「子育て情報の提供」、子育てハンドブックが完成し、保護者への配付や窓口での配付は既に行っている。

基本目標1の「児童虐待防止対策」でも触れたが、母子保健法の改正により、平成29年度から利用者支援事業母子保健型を実施し、母子健康包括支援センターとして各種相談できる環境整備に努めることとしたことから、基本目標4事業のうち「相談体制の拡充」にも同事業を加えている。

質問・意見

〔子育て支援課事務局〕委員からの事前質問に対する説明を、この事業計画の基本目標の中でお答えさせていただく。

「まちづくり計画」 P 2

事前質問は、公園を作ってほしいということだったが、比べている東金市より山武市の方が数は多い。山武市条例の公園 96カ所、東金市 59カ所。ただ、東金市は広い公園がある。

〔委員〕公園が少ないという意見は、子育て支援センターのおしゃべり会でお母さん達から出た意見でとても多かった。大きい公園ということではなく、ベビーカーでふらっと行けるところが欲しい。遊具は少なくてもいい。山武市は広いので難しいと思ったが、そういう声が多かった。小さい公園を所々に作っていただけたらと思った。

〔子育て支援課事務局〕利用頻度は別にして子どもを連れて遊びに行けるところが必要だというご意見は、担当課に申し伝える。

「世代間交流の推進」 P 5

Q こども園での「いきいきふれあいサロン」の頻度はどれくらいか。子供と高齢者の交流はお互いにとってとても良く、子供が少なく高齢者が多い山武市の問題点を逆に利用し、どんどん実施して欲しい。
我が家のように核家族で育つ子どもにとってはとても有難い貴重で大切な経験になる。

A 〔子育て支援課事務局〕平成 27 年度実績は、
なんごうこども園 “昔遊び” 子ども 45 人 推進員 16 人 計 61 人
しらはたこども園 “昔遊び” 子ども 55 人 推進員 18 人 計 73 人
なんごうしらはた合同 “餅つき交流会” 子ども 121 人 推進員 17 人 計 138 人
まつおこども園 “ふれあい楽しみ会” 計 120 人、“仲良し昔遊び” 計 32 人
いきいきふれあいサロンではないが、なるとうこども園では、ボランティアによる子どもに対する読み聞かせを月 1 回、NPO 法人花一輪と作田川沿いの花植え活動年 1 回。女性の会の作品のお手玉折り紙バッグを園で飾っている。

ご指摘のとおり、世代間交流は大切なことと思う、ご意見は参考にする。

Q 「こども園保育園等での園庭開放」 P 11

なるとうこども園では、ほとんどの遊具が年齢制限があり、チビッ子には使えなくなっている。遊ばせてあげたいけどできない。

東金幼稚園では在園児と交流したり、先生が紙芝居を読んでもくれたり、運動会ごっこをしたり、毎月お楽しみがあった。山武市ではただ園庭に入らせてもらっただけで、少し物足りない。先生方も大変だと思うが、東金市を参考にして欲しい。

A 〔子育て支援課事務局〕 年齢規制がある。国土交通省の都市公園における遊具の安全確保に関する指針、一般社団法人日本公園施設協会遊具の安全に関する規律、に

記載されている。ご指摘の遊具は、対象年齢が3歳～5歳児。自分で立ってしっかり遊具に対応できるようにならないと遊具は使えない。

Q〔委員〕 遊びに連れて行ったのに、遊びたいのに遊ばせられないのは辛い。別の遊具を用意していただくか、東金では開放時間の最後に、子どもたちを集めて紙芝居を読んでもらったり、在園の子どもと交流できるなど、プログラムの用意がある。なるとうこども園に行くと、ただ開いているだけ。東金を参考にさせていただきプログラムがあればよいのでは。

A〔子育て支援課事務局〕 貴重なご意見をありがとうございます。

Q〔委員〕 保育料第3子無料は本当か。

A〔子育て支援課事務局〕 配布した料金表を参考にしてほしい。

山武市では所得に関係なく18歳以下のお子さんが3人以上いる場合3人目は無料。一定の所得以下やひとり親などの場合は、18歳でなく年齢制限がなく3人目無料となっている。

Q〔委員〕 いいことなのに知られていないと思う。もっと周知したらよい。

A〔子育て支援課事務局〕 貴重なご意見ありがとうございます。

Q〔委員〕 「放課後子ども教室」P13

現在実施していない学校での予定はどうか。

とても良いことなので、ぜひ、実施に向けて検討し実現して欲しい。

地域コーディネーターが必要ということを知っているが、計画に記載がない。

A〔教育部事務局〕 放課後子ども教室は現在3校で実施。教育委員会としては非常に有効な事業と考えている。今後、拡大を検討。担い手の人材をいかに発掘するかであるが、人材バンクのようなものを今後作っていただくと調査等実施しているところ。

Q〔委員〕 児童館が欲しいという声が多いと思うが、この計画にない。子育て支援センターは小学生以上は入れない。児童館の計画はないのか。

A〔子育て支援課事務局〕 場所の問題と施設を建てるにはお金がかかる。今ある施設を利用できるものをあてていくというのが今の基本姿勢。現在、児童館建設は予定していない。児童館に見合うような、建物、学校の統廃合、公共の建物など、活用できるものが出てきたら、検討することは可能かもしれないが、今のところ公の施設についてもふさわしいものもない。まだ現時点では早いかなと思う。

Q〔委員〕 せめて事業名に入れていただくことはできないか。

A〔子育て支援課事務局〕 計画は、皆でもみながら作ってきたもの。この場で、入れるということではなく、次の計画で作っていくものだろうと思う。現時点でこの計画は動いていて、この計画を推進していく。そのために、こうしてみなさんにお集まりいただいております。要望する場ではないのでご承知おきください。

Q〔委員〕 「いじめ等の被害にあった子どもの保護」P4

予防の観点で語られているが、(そもそも起こらないことが望ましいので、ここに書かれていることは予防的な取組を行う事業なのだと捉えて尋ねる。) いじめ防止の推進の具体的な取組について伺う。

特に昨今のいじめ問題は情報機器上で行われていることが多い、それに対する対策は。

A〔教育部事務局〕各学校でいじめに関するアンケート実施。毎学期、あるいはもう少し多く。

いじめアンケートはその後どうなったか分かるようにしている。

いじめ相談窓口メールを開設している。子どもたちが入れられるシステム。昨年からスタート。保護者にも入れられるようにした方がいいということで、保護者も入れられるように。細かく書き込むのではなく、簡単に書き込めるようになっている。

昨年度は小学校3件入った。特定の子どもに結びつき対処できた。今年はまだない。

予防は、各学校の学級活動や学年別の集会などで、いじめは絶対に起こさないという、いじめについての子どもたちに話をしている。保護者へはPTA総会等で周知。

Q〔委員〕基本的には学校対応でプログラムを組んでいるという理解でよいか。

A〔教育部事務局〕具体的な点は学校にお願いしているが、教育委員会の中でも、いじめに対する取り組みという点で毎学期会議をもち、校長会議でも話をしている。

Q〔委員〕すばらしい取り組みなので、計画にも具体的に記載していただけると理解しやすい。

Q〔委員〕「障害のある子どもの訓練事業・障害福祉サービスの利用促進」P1
情報の提供はどのように行うのか。

また、簡易マザーズホームの通所希望者が増加しているとのことだが、施設の老朽化が目立って耐震の問題等あるかと思うが、そういう状況での今後の利用の拡大をどうしていくのか。

A〔子育て支援課事務局〕

今までマザーズホームは待機児童はいなかったが、今年、待機児童が出てしまった。指導員が不足しているということで、指導員を探さないといけないがすぐに確保できない。

待機6名のうち2名は他の市町で対応してもらい、4名待機している。

指導員の確保をし、施設が手狭であれば新たな施設を検討しなければならない。

経過としては、今まで事故があってはならないので、社会福祉協議会に指定管理委託。同じ敷地内であれば事故があった場合に支援いただけるということで成東福祉センターで実施している。

できれば母体がある場所で開所できればいいと考えている。

学校の統廃合、施設の空き状況を見極めて利活用していきたい。

ただ、待機児童がいるので早々に対応していただかなければならないので、指定管理を受けていただいている社協と協議し今後検討していきたい。

情報の提供は、まだまだ周知が届かないところがあるが、窓口では分かるようによく噛み砕いた対応をしていきたい。

Q〔委員〕「不登校・引きこもり対策」 P 4

スクールカウンセラーはなかなか難しいようで、家庭教育指導員による相談を実施するとあるが、指導員は学校に常駐しているのか、先生なのか。

A〔教育部事務局〕

現在、家庭教育指導員は、以前学校の教頭先生をしていた方を1人、生涯学習課で勤務。内容は、親業講座、親業訓練入門講座を開催。家庭教育学級やCAP等を主体となって指導している。

Q〔委員〕「ことばの相談」 P 8

市民の方から実施してほしいという声があり、後押しするよう働きかけているが、全て巡回できないとある。困難を来しているのか。ことばの相談については早期の取り組みが大変重要と思うのでこのままにしないでほしい。

今後は担当教員を増やし、就学前の相談等の引き継ぎを行い増加に努めるとあるが、実際に取り組む際の問題点があるかどうか。

A〔教育部事務局〕

現状は、成東小、日向小のほかに、今年度から松尾小に配置。

小学校13校の10校に3名の職員を割り振り取り組んでいる。

昨年度に比べ職員1人増え、昨年と比べ対応できるようになった。

就学時検診などで担当者が回り把握したり、保護者から相談を受け、実施に検査を受けてもらい対応している。

Q〔委員〕「認定こども園の設置」 P 12

課題には、蓮沼地域と松尾地域の統合再編、公立と私立の再編、とあり、今後の取り組みとしては、小中の規模適正化と調整を図りながら進めていくということだが、場所が確定された後はその場での統合再編をする考えか

A〔子育て支援課事務局〕

山武地域と蓮沼地域のこども園化だが、山武地域も蓮沼地域も私立保育園があり、今のところ、私立保育園と公立幼稚園の兼ね合いがうまくいっている状況にある。

先のことを考えれば子どもの数は減っているので統合を検討しなければならない。

しかし、民間を公が圧迫することは良くない。公私連携でこども園化できれば一番良いかと考えている。場所は、実際に一緒になった場合は手狭になる。空いてくる施設を活用しながらこども園化を進めていくことになっていくだろうと思う。学校統廃合も見据えて施設を検討していく。

小学校中学校の適正規模・適正配置の計画の前期は、計画どおり進んでいる。

〔委員〕

委員の皆さんからの子育ての現場の生の声を聴くことができ良かった。

公園は、都市整備課など様々な部署にまたがることで、調整が面倒とは思いますが、お母さんの希望は、歩いて行けるところに遊べるところを作ってほしいということだと思う。山武市の子どもを生み育てる場所で選んでほしいといいながら、児童館の考えがないというのはどうかと思う。子どもの声が今、外で聞こえなくなった。ここは子育て支援事業計画の討議の場なので、切り捨てずに、たとえば、子育て支援センター

の利用に子育て支援グループなら減免適用するから使ってほしいとか、色々な市の施設を利用して安全に約束事を守りながら遊んでもらうのは良いことじゃないかと思う。交流センターでも、芝生の場所だけは遊んでよいとか、ボールなどガラスを割る恐れがあるものは使わないでね、と注意書きをつけながら、遊べるのはいいことと思う、やわらかい角度で子育て支援を考えていただけたらと思う。

〔会長〕放課後こども教室の件、世代間交流の推進（P5）ではこども園でボランティアに来てもらっているということだった。地域にボランティアがいるということであれば、そういう方々はこども園に行き小学校に行かないということはないと思うので、小学校でやってもらえませんかと伝わるようにしたら。知らないのだと思うので、仲立ちをして、ニーズと合体すればできるのではないかと思う。

〔教育部事務局〕

まさに、そういう人材を蓄積し、教育版のシルバー人材センターを今後作ってあげればいいと考えている。課題として、今後、人材を色々なところに派遣して、事業や教室を学校やこども園に広げていくのが肝要と考えている。

〔会長〕

いつからか。

〔教育部事務局〕

地方創生交付金で既に調査を開始している。数年内で始めたい。

スピード感を持って取り組みたい。

〔会長〕

緑海は10年以上、日向小は6～7年で続いている。ぜひ早めをお願いする。

（3）その他

〔子育て支援課事務局より〕

まつおこども園移転について、山武市市立小中学校規模適正・適正配置基本計画案という計画があり、豊岡小と松尾小の統合計画が進んでいる。計画では松尾小に統合する。

松尾小は老朽化しており、平成30年から33年で建て替えという計画になっていて、松尾小の新築の中にまつおこども園の敷地が入ってる。

まつおこども園は使い勝手が良くなく老朽化しており、豊岡小に改修・移転計画がある。

まつおこども園の保護者に7月29日に説明会を教育委員会が開催し、保護者の参加多数、前向きな意見であった。

8月17日定例教育委員会、8月24日山武市学校あり方検討委員会、8月26日山武市総合教育会議で、移転計画は進めると確認している。

以上、現在の報告である。

〔委員〕

まつおこども園の移転について、勤めに行くときに預けて行けたのに、遠くまで行

かなくてもはいかなくて困るという声を聞く。

〔子育て支援課事務局〕

ご意見として伺う。

〔委員〕

こども園での説明会は、卒園される保護者の方ばかりだったので、特に意見がなかったのだと思う。子育てしていれば、不便になり困るというような意見だと思う。

川のかさ上げ等もしっかり取り組むということだったので、力強く取り組んでいただきたい。

4 その他

事務局・委員から特になし

閉会

- ・ 配付物紹介 「子ども・子育て支援新制度 なるほどBOOK（内閣府発行）」
「山武市子育てハンドブック」事業計画にある子育て情報の提供の一つ。こども園等、保健センター、出張所、子育て支援課で配付。